

関係者各位

スーパー耐久シリーズ Rd.2 富士 24 時間レース報告

2 6 号車は開幕戦に続き 2 戦連続の PP 獲得するも

2 台の Nissan Z NISMO GT4 にとって苦難の 2 4 時間となった

5 月 24 日～26 日、スーパー耐久 2024 Rd.2 FUJI 24 時間レースが開催され、8 クラス 59 台が参加し、TEAM ZEROONE からは 25 号車、26 号車の Nissan Z NISMO GT4 2 台揃っての参戦となった。日産メカニックチャレンジとしての活動は、日産栃木自動車大学の学生が 32 名、日産販売会社のテクニカルスタッフ(TS)は 11 名がチームに参加した。

■ 予選

5/24(金) コースコンディション：ドライ

今大会はシリーズ戦の最長距離となる 2 4 時間レースで、他の大会同様に A ドライバー、B ドライバーの合計タイムで予選順位が決まるタイム合算方式の予選となった。A ドライバー予選では 25 号車は植松選手が担当。植松選手は、1'48.753 と好タイムを出し、クラス 3 番手を記録。B ドライバー松田選手は一時トップタイムを叩き出したものの、ランオフエリア走行により該当タイムは記録されず、1'47,377 をマーク。25 号車の合算タイムはクラス 3 番手となった。26 号車は、A ドライバー予選は大塚選手が担当。好調な走り、1'48,461 を記録し、クラストップをマーク。B ドライバー富田選手も続き、好調な走り、1'47,268 を記録し、開幕戦に続き 2 戦連続のポールポジションを獲得した。

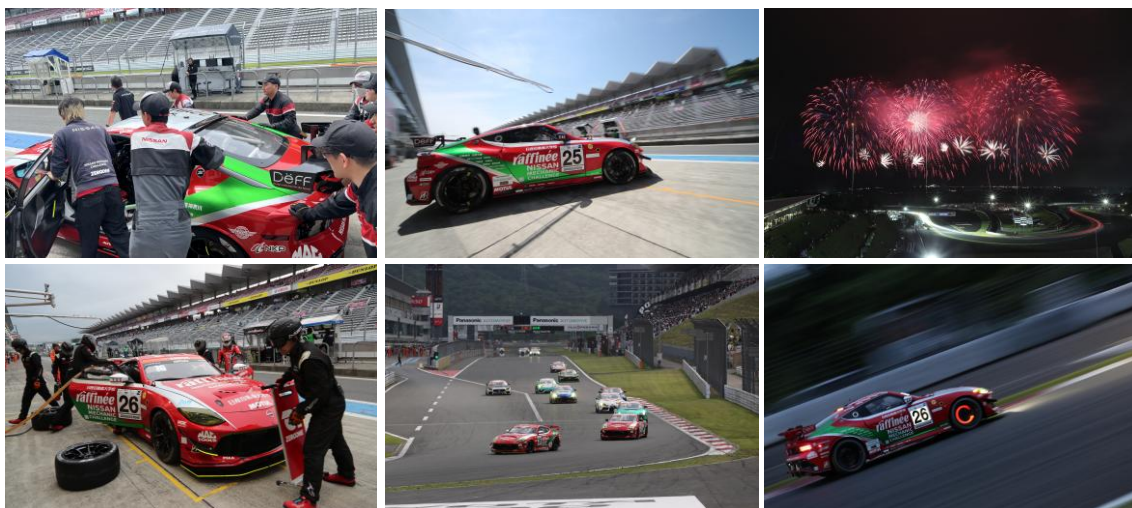
■ 決勝(24 時間レース)

5/25(土) コースコンディション：ドライ

24 時間レースとなる今大会は、2 台共に 24 時間後のチェッカーを目指し、チーム、ドライバー、スポンサーはじめ全関係者が一体感を持って取り組んだ。25 号車、26 号車共にスタートは B ドライバーを起用。松田選手、富田選手がステアリングを握ることとなった。午後 15:00 にスタートが切られると、松田選手、富田選手共に予定通り完璧なスタートを切る事が出来、26 号車富田選手はトップを走行。25 号車松田選手もオープニングラップでライバル#52 をオーバーテイク。TEAM ZEROONE の 2 台は、1-2 体制をキープしながら順調に走行を続け後続を引き離しつつレースの主導権をもった。しかし、6 周目、25 号車はダンロップコーナーで開発車両カテゴリーである ST-Q クラス#92 スーブラに左リヤから追突されてしまい緊急ピットイン。25 号車はマシンの大きなダメージを受け大規模修復作業に入った。

一方 26 号車は富田選手の快調な走りによりポジションキープ。富田選手のダブルステント後、篠原選手にバトンを繋ぐ。篠原選手も好調な走りを見せ、A ドライバー大塚選手にドライバー交代。ポジションをキープしたまま荒選手にバトンを繋ぐ。26 号車はナイトセッションに入り、順調に走行していたが、21:10 頃ギアボックスの不具合からのマシントラブルが発生。マシンを止め、リペアエリアで修復作業をすることにな

った。2 台のマシンの修復作業は夜通し行われた。想像以上の 2 台の修復作業となったが、日産メカニクチャレンジのコンセプトであるチャレンジ精神・諦めない強い心をもってメカニクを中心にチームは 15:00 のチェッカーを受ける事が出来るよう作業を継続した。14:56 頃 25 号車 26 号車の 2 台の Z NISMO GT4 は最終チェッカーを受けるべくコースイン。15:00 過ぎ 2 台共にチェッカーを受け 24 時間レースは終了した。



■ 日産メカニクチャレンジ活動

今回は日産販売会社テクニカルスタッフ（TS）11 名と日産横浜自動車大学校学生 32 名が参加した。11 名の TS は 2 班に分かれ、それぞれ 25 号車、26 号車を担当。学生は 8 グループに分かれローテーションを組みピット及びゲストエリアを担当した。ローテーションを組むことで学生達はサーキットでの様々な体験が出来ることに加え、グループ間の連携や TS、プロメカとの連携を学ぶ事が出来た。

1. ピット活動

TS、学生はアライメント調整やタイヤ管理などの作業に加え、24 時間レース特有の作業を体験した。これはブレーキローター、パッド、ハブボルト等の交換であり、耐久レースの醍醐味を感じることが出来た。また、決勝では 25 号車が追突を受け、また 26 号車はミッショントラブルがあり、緊張したピットとなった。緊急時のメカの動きを TS、学生は目の当たりにし、メカの正確性とスピードの両立したメンテナンスを学ぶことが出来た。

2. チームドライバーとの交流会

恒例のドライバーとの交流会に学生達が参加した。TS はピット作業が佳境を迎えていたため、今回は不参加としたが、後日参加したかったという意見もあり、今後の課題として認識した。学生からは多くの質問が寄せられ、ドライバーたちはユーモアを交えながら真剣に答えていた。

3. マックメカニクスツールズ特別講習

特別講習には TS、学生全員が参加。日常使用している工具の正しい使い方、また安全な作業方法等を学んだ。講習修了後、多くの学生、TS から質問が殺到し時間は超過したが、中身の濃い内容となった。

4. 他チーム見学：230号車 NISMOテストチーム、52号車 埼玉 Green Brave、12号車 TEAM IMPUL に訪問し、見学させて頂いた。TEAM IMPUL の見学については、ゼネラルマネージャーの富永さん、監督の星野一樹さんにご対応頂き、同じ Nissan Z NISMO GT4 を走らせる日産チームとして、インパルチームならではの特徴やスポンサーさんの大切さ、レースに参加する意義等学生にとっても大変興味深い内容のお話をして頂いた。

NISMO テストチーム見学については、NISMO 石川常務執行役員、木賀専務執行役員（SGT チーム総監督）から開発車両について説明を受けた。CNF（カーボン ニュートラル フuel）を使った日産の新技术について直接お話を聞いたことは TS、学生にとっても貴重な時間となった。

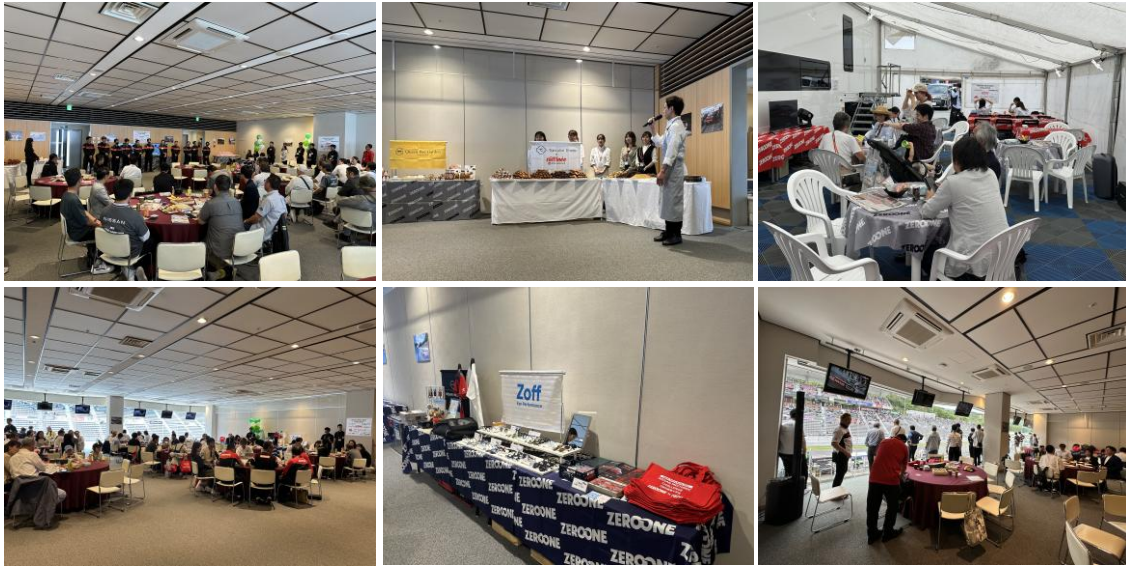
5. ブリヂストンサービスチーム、NISMO サービストレーラー見学

NISMO カスタマーサービストレーラー見学では、NISMO が日産系チームのレースをどのようにサポートしているかお話しいただいた。学生たちも真剣にメモを取りながら聞いていた。



■ゲストエリア

ゲストエリアにはクリスタルルーム(収容人数 140 名)、ピット裏テント(収容人数 40 名)の二つの拠点を運用し、予選、決勝の 3 日間で総数 200 名程が訪れた。土曜日のお昼時は一時混みあったが、日産横浜校学生もローテーションを組み 2 箇所のゲストエリアの対応を行うなど、効果的に人員を配置し運用した。クリスタルルームでは、TEAM ZEROONE パートナー企業である全 6 社『ディーフ』、『マックメカニクスツールズ』、『日産・NISMO グッズ』、『天賞堂』、『Zoff』、『クインビーガーデン』の商品を展示し、商品の魅力を来場されたお客様にアピールした。また、パティスリー『Taisuke Endo』の遠藤シェフをお招きし、ゲストにスイーツの提供をしていただいた。更に決勝レーススタート前にはチーム代表、監督、ドライバーがゲストエリアを訪れ決勝レースに向けた意気込みを話し、来場されたお客様との一体感を醸成すると共に、チームの意識を高揚させた。他にもクリスタルルームでは、モニターにピット内のライブ中継を映し出し、コース映像には映らないピット作業時の車両の状況をご覧いただいた。また定期的に柳田監督がクリスタルルームを訪れレースの状況をゲストに向けお話しすることで、ゲストエリアでのレース観戦を盛り上げた。



■ 次戦へ向けて

今大会では、沢山のスポンサーはじめゲストの方にお越し頂き、「チーム」としての意識を高めレースに臨み、2台完走という目標を掲げチーム一丸となり取り組んだが、2台共にトラブルが発生、悔しくもノーポイントで終了してしまった。次戦オートポリス戦では、応援して頂いている皆様の期待に応えるべく、2台共に必ずチェッカーを受け、日産メカニックチャレンジで参加する日産販売会社メカニック・日産自動車大学校の学生と喜びを分かち合えるように気を引き締めて取り組みたい。



以上
TEAM ZEROONE